



ほすぴあ

News from Kikugawa Hospital

HOSPIA

院内体験ツアーを開催しました



11月1日(土)に「院内体験ツアー」を開催しました。市内在住の小学4年生から中学2年生の児童・生徒とその保護者計23組46名が参加し、普段入ることができない院内の施設を見学・体験してまわりました。

今回のツアーでは、手術室の見学や縫合・腹腔鏡体験、車椅子・ストレッチャー乗車体験、薬剤科での注射薬無菌調整体験、管理栄養士の業務体験などが行われ、医療の現場に直接触れていただくことができる機会となりました。参加者は、スタッフの説明に真剣に耳を傾けながら、楽しそうに体験に取り組んでくれました。



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

1999年4月に共立菊川総合病院に赴任して以来、もう少しで27年になります。2002年6月に副院長、2019年4月に院長の要職に任命され、現在に至っております。本年度末でいよいよ定年退官となります。

前院長の村田英之先生が2006年からの13年間で、急性期4病棟を急性期2病棟+回復期2病棟（回復期リハビリ、地域包括ケア）へと、病棟を再編されました。私はこれを「有形資産の組織改革」と呼び、現在の「急性期型地域多機能病院」の原型をつくり上げた多大なる功績と評価しています。その基盤を引き継ぎつつ、私が院長として目指したことは、「無形資産の組織開発」、言わば当院で働く職員の心の発達を支援することでした。

「健康経営」という経営手法において、「経営者たる者は、その倫理観に基づき、健康管理や健康づくりだけではなく、心身ともに働きやすい環境を整備することで、従業員の働きがいや生きがいを創生し、企業の成長や社会の発展に貢献すべきである」という一説があります。私の倫理観の中心には、常に「個人の尊重」があります。その中でも「自分を尊重すること」がその基本となります。自分に「いいね」を出してあげることです。「自分のことが好きですか？」と聞かれて、即座に「はい」と答えられる人はどれくらいいるでしょうか。

赤ちゃんは両親の親族や友人など多くの人々に祝福され、生を受けます。生まれた時は、私は無条件に世界から愛されている。「大いなるもの」の下ですべての人とつながり合い、守られていると感じるでしょう。しかし、自我が形成される5歳頃になると、善意の親や教師などから、兄弟や友達と比較され、不快な自己評価の方法を教え込まれます。自分の劣等性や欠陥を見つけることが得意になり、自分が嫌いになっていきます。実はそれらは他者からの単なる評価・判断であり、真理ではないことにすら気づくことができません。私は自分の力だけで生きて行かなければならない。社会から認められ、他者から好かれる「（役割の）自分」になりたい。ひたすら他者から「いいね」をもらうことに奔走し、「社会的自尊感情」に囚われ続けます。

しかし、苦悩に満ちた人生を歩む中でふと、「自分が自分を認めてあげなければ、この苦しみからは解放されない」と気づく時が訪れます。この劣等性も欠陥も、実は私の愛すべき個性なのだ。それがあるから他者にも優しくなれるし、お互い補い合い、助け合えるよう世界はできているのだ。たとえ欠けたところがあっても、「ありのままの自分」を愛してあげたい。生きていく上で他者との関係を断つことはできないが、それはそれとして、他者とは比較できない「（本当の）自分」を愛でてあげたい。これを「基本的自尊感情」と呼びます。役割の自分で俗世間とうまく渡り合い、本当の自分で真の人間関係を築き、

相手を幸せにしていく。人は「二人の自分」が必要で、両者をうまく調和させて生きることが、苦しみから解放され、ありのままの自然体で他者を、職場を、社会を幸せにしていく方法なのだと、これまで職員へ言い聞かせてきました。

院長に就任した際、これを「ホスピタル・アイデンティティ」という一枚の絵に描きました。「私たちはまず人としてどうありたいのか」「私たちはどのような組織になりたいのか」「この組織は地域の中で何を実現したいのか」を表しており、院内の所々に掲示されています。もしも市民の皆さまが、「病院の職員はみんな幸せそうだね」「みんな生き生きしているね」「みんな優しいね」と感じてくださるようであれば、私の「無形資産の組織開発」は成就したのかもしれません。

私自身は、コロナパンデミックや産科分娩休止、経営難など病院が窮地に立たされたときに、市民の皆さまから温かい言葉をいただけたことに大変感謝しています。しかし、これは私だけの力ではなく、職員が人として日々成長し、病院を利用する市民の方々に心から丁寧に接してくれているおかげだと思っています。院長を退官した後もその恩に報いるため、もうしばらくこの地域のために働きたいと思っています。本年も菊川市立総合病院をよろしくお願い致します。



▲ホスピタル・アイデンティティ

菊川市立総合病院 院長
松本 有司



菊川市病院事業

決算報告

令和6年度決算総括事項

令和6年度は、整形外科の入院患者が増加し過去10年で一番多い人数となりました。昨年度からスポーツ疾患や膝・肩関節疾患等をより専門的に診察・治療する体制が整備されたこと、中東遠地区外特に中部地区からの入院患者が増えたことが要因となります。

また、令和6年度から令和9年度までの4年間を計画期間とした「菊川市立総合病院第5次中期計画（公立病院経営強化プラン）」の初年度となります。

持続可能な地域医療提供体制を確保するために必要な経営強化の取り組み等、今後の当院における新たな計画として位置づけ、地域の実情を踏まえたうえで、病院一丸となって進めてまいります。

当院の職員体制については表1のとおり、令和5年度と比較して診療部1人増、診療技術部3人増、看護部3人増、事務部1人減となりました。

患者数等の状況は表2のとおり、入院では令和5年度比1,875人増の68,089人（1日平均186.5人）、外来では令和5年度比2,068人増の122,658人（1日平均504.8人）となりました。

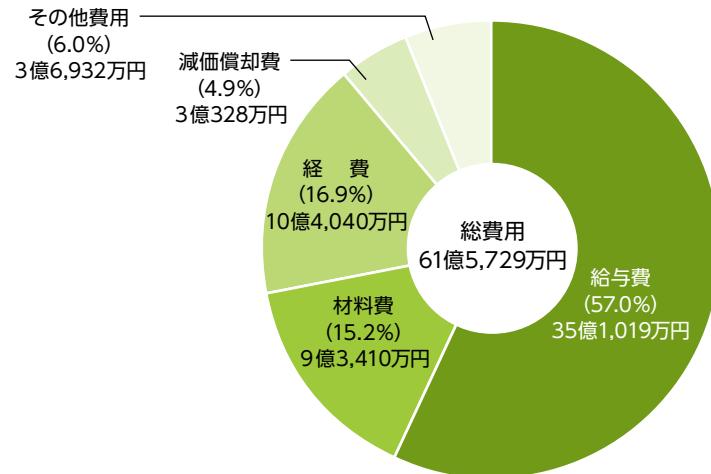
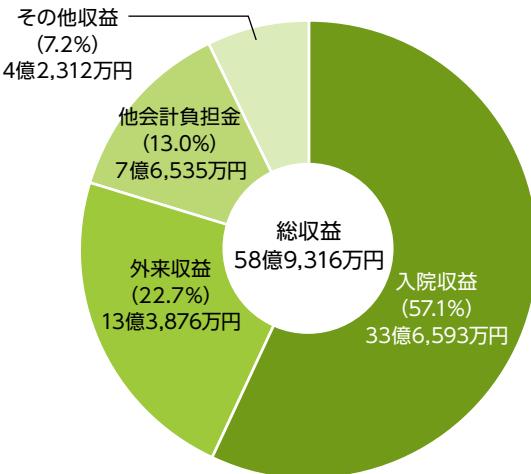
収益については、入院収益は令和5年度比7,269万円増、外来収益は5,316万円の増となりましたが、金額の減により、総収益は令和5年度比7,269万円増の58億9,316万円となりました。

費用については、すべての項目で増となりました。結果的に総費用は2億1,673万円の増の61億5,729万円となりました。

この結果、令和6年度は2億6,413万円の純損失となりました。

表2：患者数等の状況

	令和5年度	令和6年度	増減	増減率
入院延べ患者数 (人)	66,214	68,089	1,875	2.8
1日平均入院患者数 (人/日)	180.9	186.5	5.6	3.1
病床利用率 (%)	69.6	71.7	2.1	3.0
入院診療単価 (円)	47,181	49,052	1,871	4.0
平均在院日数 (日)	23.2	22.6	▲ 0.6	▲ 2.6
外来延べ患者数 (人)	120,590	122,658	2,068	1.7
1日平均外来患者数 (人/日)	496.3	504.8	8.5	1.7
外来診療単価 (円)	10,621	10,824	203	1.9



【収益的収支*状況】

	令和5年度	令和6年度	増減	増減率
総収益	58億 2,047 万円	58億 9,316 万円	7,269万円	1.2%
入院収益	31億 5,032 万円	33億 6,593 万円	2億 1,561 万円	6.8%
外来収益	12億 8,766 万円	13億 3,876 万円	5,109万円	4.0%
他会計負担金	8億 5,764 万円	7億 6,535 万円	▲9,229万円	▲10.8%
その他収益	5億 2,485 万円	4億 2,312 万円	▲1億172万円	▲19.4%
総費用	59億 4,056 万円	61億 5,729 万円	2億 1,673 万円	3.6%
給与費	34億 7,191 万円	35億 1,019 万円	3,828万円	1.1%
材料費	8億 3,665 万円	9億 3,410 万円	9,745万円	11.6%
経費	9億 7,926 万円	10億 4,040 万円	6,114万円	6.2%
減価償却費	2億 9,440 万円	3億 328 万円	888万円	3.0%
その他費用	3億 5,834 万円	3億 6,932 万円	1,098万円	3.1%
収支	▲1億 2,009 万円	▲2億 6,413 万円	▲1億 4,404 万円	-

【資本的収支*状況】

	令和5年度	令和6年度	増減	増減率
資本的収入	5億 7,082 万円	5億 1,070 万円	▲6,012万円	▲ 10.5%
企業債	2億 9,410 万円	2億 3,790 万円	▲5,620万円	▲ 19.1%
他会計出資金	2億 7,636 万円	2億 7,124 万円	▲512万円	▲ 1.9%
国県補助金	26 万円	80 万円	54万円	208.5%
寄附金	- 万円	- 万円	-	-
固定資産却代金	10 万円	76 万円	66万円	-
資本的支出	8億 1,437 万円	8億 2,049 万円	612万円	0.8%
建設改良費	2億 7,191 万円	2億 2,087 万円	▲5,104万円	▲ 18.8%
企業債償還金	5億 4,066 万円	5億 9,782 万円	5,716万円	10.6%
長期貸付金	180 万円	180 万円	0万円	-
収支	▲2億 4,355 万円	▲3億 979 万円	▲6,624万円	-

*収益的収支…経営によって生じる収益(主に診療報酬)と費用(主に給与費、材料費など)を指します。

*資本的収支…施設や医療機器を整備するためのもの。収入は企業債や他会計出資金など、支出は医療機器の購入や企業債の償還金などを指します。

菊川市立総合病院 令和8年1月の外来診療担当医表

受付時間 8:00~11:00 (土、日、祝日は休診)

2025年12月31日

●医師の異動などにより、予告なく変更することがあります。お電話にてお問い合わせください。

- 予約変更時間 15:00～16:00 (各科にお問い合わせください)
- 入院患者さま面会時間 14:00～20:00 (精神科病棟のみ 14:00～16:30)

●「△」印は非常勤医師を表します。

- 緊急手術や、学会等への出席のため、担当医師の変更や休診する場合がありますので、ご確認ください。
- 他の医療機関から当院へ受診される方は紹介状をご持参ください。

● 医療機関が「三院」(支那の「三相」)状態で持参するに至る。

●泌尿器科については紹介状による予約が必要となります。(診療枠が限られているため)

TEL 0537-35-2135
FAX 0537-35-4484

予約・お問合せ先

地域医療支援課／TEL 0537-35-2344・FAX 0537-35-2843
健診センター／TEL 0537-36-5585
家庭医療センター／TEL 0537-73-2267・FAX 0537-73-5557

全国自治体病院学会「最優秀演題」に選ばれました

令和7年10月30日～31日に群馬県にて開催された第63回全国自治体病院学会にて、当院リハビリテーション科の山崎一史さんが、第62回全国自治体病院学会の「最優秀演題」に選出されたことにより表彰を受けました。

学会全体1,418演題の中から、病院や地域医療への貢献度が高いと認められた5演題が、「最優秀演題」として選出されました。また、リハビリテーション分科会からは唯一の選出となりました。表彰後は記念講演が行われ、当院の取り組みを多くの人へアピールすることができました。



記念講演当日の様子▶

受賞演題：「心不全患者におけるリハビリ提供量とフレイル悪化の関連」 山崎 一史 理学療法士

本研究では、高齢心不全患者におけるフレイル（身体的な弱々しさ；虚弱）の変化とリハビリテーション提供量の関連を検証しました。当院に入院された高齢心不全患者の39%で退院時にフレイルスコアの悪化がみられましたが、1日40分以上のリハビリ介入により、その悪化を抑制できる可能性が示されました。

受賞者コメント

このたび最優秀演題として選出いただき、大変光栄に思っております。日々の臨床で多忙な中、データ収集に協力してくれたスタッフや互いを尊重し合う組織文化の存在があってこそ得られた成果であり、この賞はチーム全員でいただいたものだと感じています。ご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

研究を続けることは決して簡単ではありませんが、周囲のサポートをいただきながら、日々の臨床で生まれる疑問と真剣に向き合い、さまざまな学びの機会を得てきました。学術的な視点をもつことで、目の前の出来事をより深く捉えられるようになり、その積み重ねが患者さまへの医療やスタッフとの情報共有において良い影響をもたらしていると感じています。「臨床と研究は両輪である」という思いは今も変わらず、日々の経験を丁寧に振り返り整理していくことが、治療方針をより明確に考える助けとなっています。これからも臨床をより良くするために、地道に学び続けていきたいと考えています。



▲松本院長へ受賞の報告

								
1 非常に 健常である	2 健常	3 健康管理 している	4 ごく軽度の 虚弱	5 軽度の 虚弱	6 中等度の 虚弱	7 重度の 虚弱	8 非常に重 度の虚弱	9 人生の 最終段階
活動性の高い症状はないものの、カテゴリー1(よく健常ではない)とされる人々は、定期的に運動を行っている。同年代の中では、最も健常である。	活動性の低い症状はないものの、カテゴリー1(よく健常ではない)とされる人々は、運動をしたり非常に活発だったりする。	時に症状を訴えることがあるが、医学的な問題はなく、運動によっては運動をしたくない。	自立して日常生活の移行の初期段階で、日常生活で介助を要しないが、症状により活動性が制限される。よく動作が鈍くなったり動作が遅くなったりと訴える。	これらの人々は、動作が明らかに鈍くなり、高齢(IADL:手動的日常生活活動)が困難(歩行、食事、衣服の着脱、排泄等)で、日常生活での介助が必要となる。軽度の虚弱のため、買い物や1人で出かけること、食事の準備、服薬管理等が徐々に障害され、軽い家事もできなくなったり始めるのが特徴である。	屋外でのすべての活動や家事で介助を要する。室内で介助を要しないが、歩行の困難が生じ、入浴等では介助が必要である。まずは歩行の介助(声掛け、見守り)が必要となることがある。	どのような原因であれ、身体的あるいは認知的な、身の回りの介助(介護)について完全に妻子介助が必要である。そのため、介助が必要となることがある。	完全に介護状態であり、人の介護が必要である。介護の段階が進行するに従って、は、軽度の疾患からでさえ回復できない可能性がある。	死期が近づいてる。高齢の虚弱で見えてくるもの、命が余りなく、あればあればのカテゴリーに入る(人生の最終段階にあって多くの人は死の間際まで運動ができる)。

▲研究で用いられた臨床虚弱尺度（フレイルスケール）

リハビリテーション科より

リハビリテーション科では、すべてのスタッフが自分の強みを活かしながら臨床に向き合い、より良い医療を届けるために研鑽を続けています。臨床で生まれた疑問を共有し、学び、必要なデータを協力して集めて分析するなど、患者さまの目に触れない場面でも多くの努力が積み重ねられています。今回の研究成果は、そうした日々の積み重ねが形になった一例であると感じています。

これからも「地域の皆さんに信頼される明るい病院」という理念を胸に、科学的根拠に基づいた質の高いリハビリテーションを提供できるよう、学びと実践を大切にしながら地域医療に貢献してまいります。

研究者プロフィール

山崎 一史 (やまざき かずひみ) 認定理学療法士: スポーツ／循環器、修士 (リハビリテーション科学)

国際学会発表、論文執筆、ガイドライン・教科書作成など学術活動にも携わる。研究テーマは腰椎分離症、身体の使い方、多剤併用、人工膝関節、心不全など多岐にわたる。

MRI装置が新しくなりました！

診療放射線科 木下 峻

【MRI検査とは】

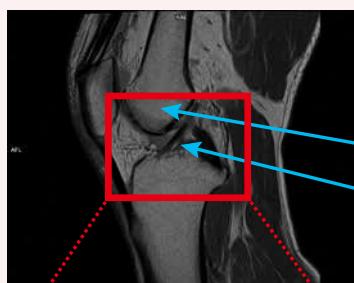
MRI（磁気共鳴画像）検査は、強力な磁石と電波を利用して、体内の水素原子の磁気共鳴（NMR）信号を画像化します。X線を使用しないため、放射線被ばくの心配はありません。CT検査に比べて臓器や軟らかい組織を鮮明に区別できます。特に脳や血管、脊椎脊髄、関節、肝臓や脾臓、子宮や卵巣、前立腺などの病気の診断に優れています。検査中は大きな音がしますが、体への負担が少なく、安全に受けられる検査です。

当院では9月より、新しいMRI装置に更新しました。この新しい装置により、患者さまの検査時間によるご負担を減らし、より質の高い検査が提供できるようになりました。

【新しいMRI装置の特長】

・AI技術で、より短時間・高画質な検査が可能に

AI技術を搭載したことで、検査時間の短縮と画質の向上が可能となりました。たとえば、整形外科（静岡中西部スポーツ・膝肩関節治療センター）からの依頼で最も多く撮影する膝の検査では、これまで約19分かかっていた撮像時間が約14分に短縮されました。さらに、従来よりも鮮明で高精細な画像が得られるため、より正確な診断につながります。



膝の画像

骨
靭帯



膝の拡大画像

図1. 従来の装置画像

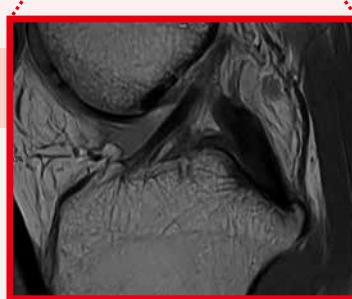
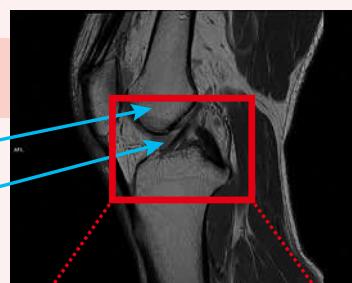


図2. 新しい装置

従来の装置（図1）よりも新しい装置（図2）で撮影した画像の方が、骨や靭帯がよりはっきりと映っています。

・環境に配慮した「エコ」な装置

装置の更新にあたり、既存の装置の主要部品を再利用することで、資源の節約とコスト削減をすることができました。

また、省エネルギー技術により、消費電力を平均で約30%削減し、環境負荷の低減にも貢献しています。

当院ではこれからも、安心・安全な医療の提供に努めてまいります。
何かご不明な点がございましたら、お気軽に診療放射線科までお問い合わせください。



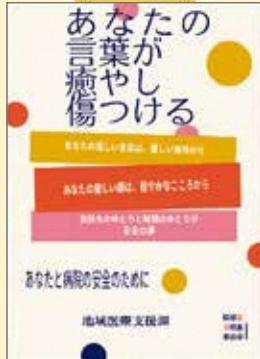
▲MAGNETOM Sola Fit
SIEMENS Healthineers製

医療安全ポスター

医療安全推進の取り組みとして、職員から医療安全ポスターを募集し、院内で投票を行いました。

その中から、投票数の多かった上位3作品を紹介します。

第1位



地域医療支援課

第2位



薬剤科

第3位



3階東病棟

当院よりお知らせ

看護部病院見学会のご案内

「未来の看護師へ」ここで働きたいを見つけに来ませんか！

対象者 令和9年4月 就職を希望される方

日 時 令和8年3月13日(金)・3月25日(水)
9時30分～11時00分

会 場 菊川市立総合病院 2階会議室

内 容 看護部の組織及び教育体制・施設紹介／
給与・福利厚生について／

先輩看護師へ質問タイム

申込方法 ホームページに掲載致します。

申込締切 令和8年3月6日(金)



静岡県知事表彰を受賞

令和7年11月3日、病院ボランティア「星」が県知事表彰の**地域活動・ボランティア等善行功労**を受賞いたしました。長年にわたり、当院において受診患者さまへの院内の案内、診療申込書等の代筆、乳幼児の子守り及び車椅子を利用する患者さまの介助などを継続し、地域福祉の向上に寄与した功績が認められました。おめでとうございます。



病棟編成変更のお知らせ

入院患者さまのスムーズな受け入れのため、令和7年12月1日より各病棟の診療科構成が変更となっております。ご確認ください。

3 東病棟 診療科	整形外科
4 東病棟 診療科	内科、外科

※状況に応じて混在する場合もございます。



病棟改修を行いました

療養環境のさらなる充実を目的に、病棟の一室を改修しました。

車椅子をご利用の方にも安心してお使いいただけるトイレ・シャワー室を新たに設置しました。

今後も患者さま一人ひとりに寄り添い、安心して療養できる環境づくりに取り組んでまいります。



地域連携つうしん (医療機関向け)

地域連携・福祉相談係では、近隣開業医、近隣病院向けに「地域連携つうしん」を発行しています。当院の特徴ある診療内容や新しい機器の導入、更新情報などを発信しております。

今回の特集内容は、令和7年12月号「思春期の自我体験と「異界」について」です。ご興味のある方は、ぜひご覧ください（右記から閲覧できます）。



令和7年12月号